

酒田市こども計画

令和 7 年度の実施状況

(1) こどもの幸せを実現する視点



施策の方向性

こどもの心身の健やかな成長のための環境づくり

基本施策

1. こどもの生きる力の育成
2. 配慮を必要とするこどもへのきめ細かな支援
3. こどもの貧困対策の推進

R7の主な実施状況

【1. こどもの生きる力の育成】

市立保育園を会場に公開保育研究大会を開催し、法人立保育所等と共に保育士等職員の資質向上を図った。また、一人一台端末の活用できる環境を整備し、情報教育研修会を実施したほか、劇団四季によるミュージカル鑑賞、中学校部活動の地域展開改革推進期間の取組みとしてのサポーターセミナーの開催などで、確かな学力、豊かな心、健やかな身体の育成等を図った。また、幼保小指導者相互職場体験研修を実施し、こどもの育ちなどに関して情報共有を行った。

【2. 配慮を必要とするこどもへのきめ細かな支援】

児童虐待に関して、要保護児童対策地域協議会を設置し、代表者会議2回、実務者会議6回開催し、関係機関との連携・支援体制充実を図った。また、11月のオレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーンに合わせて市広報で虐待に関する理解と通報先を周知した。

障がい児等への支援に関して、3歳児健康診査に発達支援相談員が従事し、随時発達相談の実施を行った。適時情報共有を図り、訪問、乳幼児健診を通じて切れ目のない支援へ繋げた。児童発達支援センター「酒田市はまなし学園」では通園児童の対応のほか、保育所等訪問支援事業を実施し、児童発達支援利用人数は288人、保育所等訪問支援利用人数は26人、相談支援事業所はまなしにおける相談支援利用者は270人であった。

国際化の進展に伴い、外国語版母子健康手帳（英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、フィリピン語対応）の交付できる体制をとっている。翻訳アプリを活用し、乳幼児健診や家庭訪問等で相談支援を実施した。また、小学校で3名（英語2名、中国語1名）に対し、日本語講師を派遣し日本語指導を実施した。

【3. こどもの貧困対策の推進】

住民税非課税世帯等を対象に、大学等の受験費用及び大学・高校等受験に向けた模擬試験費用を支援した。ひとり親家庭を対象に、高等職業訓練促進給付金を7名に支給し、就職を容易にするために必要な資格の取得を促進するとともに、自立支援教育訓練給付金の受講前の講座指定を2名実施し、主体的な能力開発の取組みを支援した。

○こどもの心身の健やかな成長のための環境づくりについて、計画に基づき着実に実施したものの、こどもたちを取り巻く環境は多様化・複雑化する中で、引き続き関係機関が連携した分野横断的な取組みが必要がある。

(2) 未来の社会の担い手育成の視点



施策の方向性

次代を担う若者を支援する環境づくり

基本施策

1. 若者の暮らしの希望がかなう環境の整備
2. 若者の移住・定住の促進

R7の主な実施状況

【1. 若者の暮らしの希望がかなう環境の整備】

市内高校生に対する模擬面接会や「学生・U I J ターン庄内就職説明会」などを関係機関と連携して実施することで、若者の就労が図られたほか、地元企業の業容拡大支援や新規企業立地により、若年者の雇用機会を創出した。また、若者地元就職魅力PR動画の配信、高校生が市内企業を見学する「企業見学ツアー」（市内高校生、大学生、保護者等）の実施や、高校生が個別訪問可能な企業をリスト化して各高校へ情報提供するなど、地元就職を促進した。

多世代の意見を取り入れるため、新たなオンラインツールを活用した意見聴取について情報収集を行った。婚活イベントを年3回開催したが、内1回は参加者不足により中止となった。休日結婚相談日や夜間結婚相談日を設けサポートを行い、結婚支援の推進を図った。

【2. 若者の移住・定住の促進】

移住に関する情報発信や移住体験の機会の提供を行い、首都圏移住イベントの相談受付数は延べ54組72人、移住ポータルサイトのPV数は84,538PVだった。また、移住を検討している方にお試し住宅やリモートワークの支援を行い、移住お試し住宅の利用実績は延べ39組84人だった。移住した方に住宅の支援を行い、令和7年度の交付実績は9件3,250千円だった。

○次代を担う若者を支援する環境づくりについて、施策等を通じた移住者数は順調に推移しているものの、政府が令和8年度に実施している若者10万人の総合調査の結果等も踏まえ、的確かつ効果的な政策の展開につなげる必要がある。

(3) 保護者に寄り添う視点

施策の方向性

子育て世帯の健康を守る環境づくり

基本施策

1. 安心して妊娠、出産ができる体制の整備
2. 親子の健康の増進

R7の主な実施状況

【1. 安心して妊娠、出産ができる体制の整備】

母子健康手帳交付時からさかたすくすくベビーギフト配布、産婦支援、新生児訪問、各種教室等で相談支援を継続してこども家庭センター「ぎゅっと」で実施。関係機関と連携し、切れ目のない子育て支援を行った。

また、母子健康手帳交付時、転入手続き時に定期受診の必要性について説明し受診券を交付した。産科医療機関と連携し、定期受診を勧奨した。マタニティ教室と未来デザイン講座は、夫婦で参加しやすいよう土・日曜日も開催（全13回中、土日開催9回）。マタニティ教室233人、未来デザイン講座63人参加。参加者計296人中夫家族は146人。95%以上が夫婦で参加している。

【2. 親子の健康の増進】

関係機関と連携しながら3か月児・1歳6か月児・3歳児健康診査、9か月児相談、2歳児歯科健診を実施。総計96回1,861人が受診した。また、健康診査要フォロー教室（ひよこ教室）を10回開催、延人数43人が参加した。ひよこ教室では、発達や育児に関する相談を行った。

マタニティ教室Aコースでは、健康課栄養士が妊婦の食事や栄養素のとり方について講話やフードモデル等の展示を通して情報提供を行った。全5回119人（うち妊婦61人）参加。また、酒田市食育ハンドブックを3か月児健康診査で情報提供した。

○子育て世帯の健康を守る環境づくりについて、計画に基づき着実に実施した。一方、今後は令和7年度に導入した母子手帳アプリなども活用し、妊産婦、子育て世帯へ適切な情報提供を行っていく必要がある。

(4) 仕事と生活の調和の実現の視点



施策の方向性

子育てしやすい環境づくり

基本施策

1. 子育て世帯にやさしく安全な生活環境の整備
2. 仕事と子育ての両立に向けた多様な働き方の実現

R7の主な実施状況

【1. 子育て世帯にやさしく安全な生活環境の整備】

バリアフリー化などの住宅リフォーム工事を行う方を対象に、24万円を限度に補助金を交付した。その際、18歳以下の子がいる子育て世帯の割増（上限30万円）を実施した。遊具のある公園165箇所のほか、小中学校や保育園等の屋外遊具のある施設39箇所について遊具の定期点検を実施し、異常が確認された遊具の修繕、撤去を行い、良好な公園環境の維持に取り組んだ。

講師派遣依頼のあった保育園、幼稚園、子育て支援センター等に出向き、計113回延べ人の4,181幼児に対して、かもしかクラブ又は幼児交通安全教室を開催し、交通安全指導を行った。クマの出没情報や不審者情報、気象災害による注意喚起等のメール配信を実施し、児童生徒の安全確保に努めた。

【2. 仕事と子育ての両立に向けた多様な働き方の実現】

市内事業所への訪問や奨励金制度などにより、働きやすい職場づくりに取り組む事業者との情報交換や支援を行った。また、「若者・女性に選ばれる酒田」の取組として「働く酒田イノベーション戦略」を策定した。

家事シェアと片付けをテーマにしたウィズ講座を2回実施したほか、「家事シェアチェック宣言」の募集（137世帯参加）、家事シェアパンフレット「家事シェアのススメ」の全面リニューアルなどを行った。



○子育てしやすい環境づくりについて、えるぼし、くるみん、ユースエールの新規認定市内企業数が令和7年度9件となるなど、多様な働き方の実現に向けた取組みが進んでいる。引き続き、計画に基づいた取組みを着実に進めていく必要がある。

(5) 地域社会全体による支援の視点



施策の方向性

地域で子育てを支援する環境づくり

基本施策

1. 地域における子育て支援の充実
2. こどもと保護者の居場所づくりの推進

R7の主な実施状況

【1. 地域における子育て支援の充実】

こども家庭センター「ぎゅっと」において、保健師や社会福祉士等の専門職が各ライフステージ（乳幼児期、学童期など）に応じた相談に対応、支援している。必要時は関係機関と情報共有を図っている。

各子育て支援センターで発育測定やぎゅっとサロンや各種育児講座等を実施し、育児相談に対応するとともに、保護者同士の交流を図った（各センターでの発育相談件数240件、ぎゅっとサロン延べ11回開催・親子延べ131名参加）。

また、子育てに係る負担軽減として、産後ケア事業や産前産後サポート事業を実施し、産後ケア事業は宿泊型79組、通所型72組、訪問型71組が利用。産前産後サポート事業は、ぎゅっとサロンは親子62組、妊婦1人の参加。母乳ミルク相談189件、産後の骨盤ケア教室86人の参加があった。多胎児養育支援員派遣事業は3家庭が276時間利用された。

【2. こどもと保護者の居場所づくりの推進】

学童利用児童数の変動にも対応できるよう様々な整備方法・運営方法について検討を進めた。また、学校の余裕教室等の活用可能性について、教育委員会や小学校長等と協議を行った。

天候に左右されずにこどもが遊べる場づくりの一環として、総合文化センターコミュニティルームを「あのもしえパーク」として開放した（小学校の長期休暇に合わせて延べ67日間。保護者含め延べ2,340人利用）。

○地域で子育てを支援する環境づくりについて、計画に基づき着実に実施したが、学童保育所の待機児童など課題が残る。引き続き、関係者と連携し施策の実効性を高めていく必要がある。